

(氏名) 阿久津 由佳	(学部) 経済学部
1 重要事項 (1) 英語カリキュラムの円滑な実施のための対応 カリキュラムの適正な実施のために非常勤講師の先生方への説明や調整などを行った。また、コロナ禍は落ち着いてきたものの、その影響で非常勤教員が不足しその対応等にも時間を割いた。 ① 必修科目についての指針、内容など詳細の決定及び説明 同一科目・レベル内での同質な授業の質の確保をめざして、内容やルールについて検討後、それを文書化し、zoom 会議および対面で詳細に説明を行った。 ② 多読プログラム (Xreading) の導入準備と遂行 Extensive Reading Program の手段として 2022 年度から採用した Xreading の運用担当者の一人として、課題や内容等詳細を検討後、教員および学生に対して資料を作成、説明等を行った。 2022 年度に実施した説明会、作成した資料、対応等は以下の通り。 ・使用開始前に Xreading の作成者を招き、Zoom で非常勤講師を対象として説明会実施 ・本学の使用環境や目的に合わせて、学生向けマニュアル、教員向け概要説明書をオリジナルで作成し配布 ・前期に生じた問題に対応して後期に学生向けマニュアル改訂版や教員向け対応書を作成、配布 ・教員と学生からの質問等に対応 ③ 科目レベル別英語担当者会議の開催 授業の振り返りと 2023 年度の授業に向けての説明のため、後期終了後にレベルコーディネーターを務める科目について、個別の担当者会議を zoom にて 2 度開催した。会議では、本学の英語カリキュラムの概要について説明後、各科目に関する内容や課題、来年度の変更点や注意点などについて説明し、担当者からのフィードバックをいただいた。 ④ コースリーダー・レベルコーディネータ業務の遂行 Business English III/IV のコースリーダー兼 advanced level のレベルコーディネーター、Business English I/II (Pre-Intermediate) と General English III/IV (Upper Intermediate) のレベルコーディネーターとして、カリキュラムに関して非常勤講師の先生方に個別に内容等の説明を実施し質問に対応した。 (2) 教育 現行の授業の改善に向けての取り組みも引き続き行っている。2022 年度は、1、2 年生の Business English の必修科目を 3 種類と選択科目を一種類担当した。学生が能動的に学習できる英語授業の形態を目指し、授業中の自主的な発言や発表にポイントを付ける、グループ活動について内容の自由度を上げるなどの工夫をしている。また、授業内での学習において TOEIC や TOEFL をはじめとする外部試験についての意識を高めることで、英語学習の意欲をわかりやすく高めるとともに、スキルとしての英語力の獲得を強調した指導を実施し、必修英語という動機づけが低くなりがちな科目に目的意識を持って取り組んでもらえるようにしている。 授業外では、希望者を対象に個別の英語学習相談や留学相談を実施し、各自のレベルや適性、目標に合わせた学習、留学計画作成のアドバイス等を行うことも継続している。海外留学に興味がある学生がまた増えてきており、2022 年度は計 15 回	

のセッションを行った。

(3) 研究

継続研究としては、語用論的要素をどのように学校英語教育に取り入れるかについての研究を進めている。また、オンライン学習の動機づけについての研究も少しずつデータを収集している。2022年3月には、久しぶりに対面での学会に参加することができた。

2 その他の事項

① 英語部会と部会内の担当業務

メンバーとして、英語カリキュラム関連の課題解決のための英語部会に参加した。

② TOEIC Basic の代講

担当の非常勤講師の体調不良による休講に対応するため、約1か月間代講を実施した。急遽の決定で、担当したことのない科目だったため、授業の準備に非常に時間を費やした。

③ 英語必修科目の補助教員

必修科目担当の教員がケガによりオンラインで授業を実施するため、教室で受講する学生の補助をした。(10月～12月)

3 次年度以降の計画・抱負

2023年度は、もう少し研究に注力したい。コロナ禍で教育環境にここ数年間大きな変化があった。そのため、約60名の英語非常勤講師の先生方にその変化に対応しつつ、できる限り理想的にカリキュラムを実行していただくことや、カリキュラム上の突発的な問題や状況への対処のために、近年かなりのリソースを使わざるを得なかった。今後はこの状況が落ち着いてもっと個人の研究に力を入れられるようになることを願っている。